

見ないで信じる者に

ヨハネによる福音書二〇章24〜31節

トマスは答えて、「私の主、私の神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。」(28、29)

主イエスが弟子たちの前に姿を現されたとき、弟子の中で一人、トマスはそこにいませんでした。そのため彼は主の復活を信じることができず、頑なにそれを否定しました。そのトマスのために、主イエスはもう一度現れてくださいました。そのときトマスは、「私の主、私の神よ」とイエスを礼拝しました。ここがこの福音書の頂点だと言われます。どんな人もイエスを信じて礼拝する者となるように願ってこの福音書は記されたのです。「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである」という主イエスの言葉は、見ることによってではなく、「聞いて信じる」ことを主は求められたということです。復活の証人たちの言葉を聞いて信じ、礼拝する者となるように願っておられます。その招きを受けて、神の言葉である聖書の語りかけを通して主を信じる私たちでありたいものです。